

週刊 SSH（7月15日）

SSH講演会（1学年）

東京科学大学 教育研究組織 総合研究院 教授の中村健太郎先生をお招きして、講演会を実施しました。「探究の方法論」と題して、大学における中村先生の研究経験に触れながら、探究活動とは何か、またそれに向き合う姿勢や考え方について、お話していただきました。

音の仕組みから波動の話に発展し、スピードガンやWi-Fiルーターなどの工業製品にいかに応用されているのか、また超音波を液体にぶつけることで液体が物体に触れずに移動させる研究の話など、身近な話から最新の研究まで様々な事例を交えてご説明いただきました。宇宙などの壮大な研究テーマも良いが、我々が当たり前だと思って気にも留めない、しかし皆がぶつかる身近な社会課題を見出し、解決することも科学者として必要だという話に、生徒は大変刺激を受けていました。また、文理関係なく両者にまたがる幅広い教養を身につけることは科学者には必要なことであり、「教養主義」を掲げる戸山高校で精いっぱい勉強してほしいというメッセージは、生徒たち一人ひとりに響いていた様子でした。以下は、受講した生徒たちの感想です。

自分の研究にプライドを持って、自分のやり方があっているんだという強い思い、自尊心をもって研究することが大切だと思いましたT型の人間（一つのことに熱中して貫き通せる人）になりたいと思っていましたが、今回の講義を聞いてもう一つ別の専門に取り組むことが意外なところで解決のヒントになるため、興味あるものに様々な挑戦していきたいと思いました。失敗しても切り替えて、次の研究に着手したり、失敗でくじけないようにする。戸山高校も自由だけど大学はもっと自由なんだなと思いました。

超音波を活用することによって、身近な技術を発達させることができるとわかり、とても興味深く感じました。私は毎日「音」に触れているけれど、今回の講演を聞いて音には意外な面白い性質がたくさんあったことを知り、それらの研究を突き詰めていくことの素晴らしさに気づきました。また、研究を進めるうえで、自分のやりたいことは忘れずに突き詰めていくべきである一方、様々なことに目を向けてチャレンジすることも大切だというお話が印象に残りました。身の回りの問題から解決していくために、普段から幅広い分野に興味を持ち、目を向けながら生活していこうと思います。